

はじめに

千歳市は、支笏洞爺国立公園「支笏湖」や清流「千歳川」をはじめとする豊かな自然環境に恵まれた住環境と、北海道の空の玄関「新千歳空港」をはじめとした交通アクセスや生活利便性に優れた都市環境が調和し、北海道内でも若いまちとして発展を続けています。

しかしながら、近年の地球温暖化を起因とする気候変動の影響は、世界的に深刻な自然災害をもたらしており、国内においても、これまでに経験したことのない猛暑や集中豪雨などが頻発し、本市においても、令和5（2023）年の猛暑は、夏の平均気温で20年前から約6℃も上昇しており、「異常気象」とも言える極端な気候変動は、市民生活に大きな影響を及ぼしております。

本市は、令和4（2022）年2月7日に、令和32（2050）年までに温室効果ガス排出量実質ゼロとする「千歳市ゼロカーボンシティ宣言」を表明いたしました。

また、支笏湖地域は、千歳第一発電所をはじめとする水力発電によって大部分の電力をまかなわれている「国立公園でも希少な電力ゼロカーボン地域」であるとともに、地域の方々が長年に渡り環境保全と活用の共生に配慮した取組を続けている地域であることから、令和4（2022）年3月29日に、環境省より「ゼロカーボンパーク」に登録されたところであります。

市民や事業者の皆さんと地球温暖化の危機感を共有し、温暖化を食い止め、本市の豊かな自然環境を後世に引き継ぐために、「千歳市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定しました。本計画には温室効果ガスの削減目標や脱炭素シナリオを定めており、将来ビジョンとして掲げた「“人と自然の輪でつながる”ゼロカーボンシティ ちとせ」を実現するため、市民と事業者、行政が一体となって脱炭素化とまちの発展の両立を目指し、取組を進めてまいります。

結びに、本計画の策定に当たり、貴重なご意見をいただいた、千歳市環境審議会委員、ちとせゼロカーボンプロジェクトチームの皆さま、並びに計画策定にご協力いただいた多くの関係者の皆さまに心からお礼を申し上げます。

令和6（2024）年3月



千歳市長 横田 隆一